

# ニュースぶらす

## 政界 Zoom

石破茂政権が2024年10月に発足してからもつづく半年を迎える。どのようなチームが首相を支えているのか。首相の側近といえる首相補佐官や官房副長官、秘書官らのプロフィールを探った。

首相を補佐し、内閣の重要政策の企画・立案も担う補佐官は石破内閣に3人いる。

政権発足時に首相は国家安全保障などの担当に長島昭久元防衛副大臣を補佐官に起用した。長島氏は旧民主党の野田佳彦政権でも補佐官を務めた。民主党で保守派として知られ、19年に自民党に入党した。24年の自民党総裁選で首相の推薦人だった。

米留学を経験し米政界にパイプを持つ。25年2月の首相とトランプ米大統領との首脳会談の地ならしを担った。「安全保障は満額回答だった」「われわれが拍子抜けするくらいトランプさんが石破さんを氣遣っていた」と会談を振り返る。

### 補佐官2人は元野党議員

石破内閣の官房副長官・首相補佐官(敬称略)

官房副長官	橋慶一郎	政務 (与党や衆院の国対、省庁との調整、首相外国訪問の同行など)	衆院議員
	青木一彦	政務 (与党や参院の国対、省庁との調整、首相外国訪問の同行など)	参院議員
	佐藤文俊	事務 (省庁間の調整など)「官僚のトップ」	元総務次官
首相補佐官	長島昭久	国家安全保障に関する重要政策及び核軍縮・不拡散問題担当	衆院議員
	森昌文	国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに科学技術イノベーション政策その他特命事項担当	元国交次官
	矢田稚子	賃金・雇用担当	元国民民主党参院議員

# 「チーム石破」人物ファイル

首相を支える秘書官

政務	樋道明宏(防衛、1985年) 吉村麻央(石破事務所) 井上博雄(経産、94) 貝原健太郎(外務、96)
事務	熊木正人(厚労、93) 土屋暁胤(警察、95) 中島朗洋(財務、93) 吉野幸治(防衛、95)

(注)カッコ内は出身組織と入省・入庁年次、敬称略

## 官邸主導ですばやく仕事



岸田政権で首相補佐官、官房副長官を歴任した自民党の村井英樹衆院議員に補佐官の仕事の内容などを聞いた。写真。(肩書は当時)

補佐官の仕事の内容は、「AI(人工知能)など動きが速くて全庁にまたがる官邸のリーダーシップが求められる政策や、党本部との調整も含めた政治的な判断が必要な案件が

主だった」  
印象的だった政策を教えてください。

「岸田政権が掲げた経済政策『新しい資本主義』の具体化に本原誠二官房副長官を補佐するあたりで関わった。NISA(少額投資非課税制度)の抜本的拡充など資産所得倍増に向けた取り組みは印象深い」

一日の過ごし方は。「官邸での執務が大半だが、党本部の幹事長室に向いて打ち合わせをすることもあった。政権の初年度は岸田文雄首相が自民党総裁選で打ち出した『党員の任期制限』のための党則改定に向けて党本部との調整を担った」

「首相と官邸で会っていたのは1週間に2回ほどで、2人だけで面会して関心事項の指示を個別に受けることも多かった」  
23年秋には補佐官から官

## 首相に「マイナス情報」伝達

房副長官になりました。「副長官になると首相に上がってくる案件のほとんどすべてに関わる。重要案件は首相、官房長官、副長官3人が日々コミュニケーションをとって対応した。政権の方向性と異なる政策の軌道修正も重要な担務だった」

「予算や法律の円滑な成立に向けて官邸の窓口として国会と向き合う。自民党派閥の政治資金問題を巡り国会運営が大変だった時期だった」

「官邸スタッフとして心がけたことは、

「心がけていたことは首相にとってマイナスの情報も率直に伝えること。首相に会う人は基本的にプラスのことしか言わない。耳が痛いことも含めて政権が置かれている状況ができる限り正しく伝えるのは自分の役割だと思っていた」

経験者が2人になった。副長官に橋慶一郎衆院議員、青木一彦参院議員、佐藤文俊元総務次官を登用した。橋氏は自民党が野党に転落した09年の衆院選で初当選した。衆院富山3区選出で、高岡市長などを歴任した。選挙に強く小選挙区で6連勝する。首相が総裁選に出るたびに応援していた。党内で国会対策に通じ、いまは官邸と国会の連絡役となっている。

青木氏も国会調整を担う。父は「参院のドン」と呼ばれた実力者だった故青木幹雄元官房長官。参院鳥取・島根選出で、衆院鳥取1区の前首相と選挙区が重なる。

18年の党総裁選で首相が当時の安倍晋三首相に挑戦した際、青木氏の所属した参院竹下派は石破氏を支援した。青木氏は24年総裁選でも首相を推した。

官邸からは「首相とフラットに接することができる側面」

近」との声がある。国会を弁を巡る進言も多いという。佐藤氏は官僚のトップとして各省庁との調整を担う。総務省(旧自治省)出身で地方行政などを担当してきた。地方創生を重視する石破カラーが反映された。

日本経済新聞の首相官邸で就任から2月末までの首相との面会数を確かめたところ、橋氏は50回ほど、青木氏は40回ほどが目立つ。佐藤氏は10回超で、補佐官の森氏のほうがおよそ20回と上回る。

長島氏は少なくとも8回面会している。矢田氏は記録上はあまり面会していない。

首相秘書官は岸田前政権から政務秘書官2人と事務秘書官6人の構成が続く。前政権と違つたのは厚生労働省の出身者が加わったことだ。

秘書官の重要な仕事の一つは首相の国会答弁の調整だ。ある秘書官は「首相は自分が理解するまで省庁に質問する。勉強熱心だ」と話す。

樋道明宏、吉村麻央両氏が政務秘書官を務める。樋道氏は元防衛審議官で首相の防衛相時代の秘書官だった。

吉村氏は政策担当秘書として首相を20年以上支えてきた。議員会館で与野党から名物秘書として知られる。総裁選で公約の作成やSNSでの発信を担った。

少数与党の石破政権は国会運営に苦慮する。首相と林芳正官房長官、副長官、樋道氏はほかの予定がなければ毎日一回は集まってミーティングをしている。

出席者によると、どうやって予算審議を乗り切るかの方策も練った。「参院での審議時間が長くなるなら、衆院の審議をどうすれば効率化できるか」といった議論をした。

「クセのある人がいないので働きやすい」。石破官邸の労働環境をある秘書官はこう評する。

### 記者の目

## 党のキャリアパス重視せず

石破茂首相は自民党内で長く「非主流派」として過してきたとされる。赤沢亮正経済財政・再生相、村上誠一郎総務相、岩屋毅外相といった閣僚、橋慶一郎氏ら副長官の陣容をみても党内で少数の石破シンパから起用した感が強い。

首相補佐官に登用した長島昭久氏は自民党入党が2019年と日が浅い。元国民民主党参院議員の矢田稚子氏の留任も含め、首相は人事で自民党内のキャリアパスをさほど重視していないことがうかがえる。

首相は就任後、党総裁選前の独特の主張や「石破カラー」が鳴りを潜めていると指摘されている。補佐官は現状3人で最大5人の枠を使っていない。政策を推進するため、首相は常識にとられない人事へ残り2枚の「補佐官カード」も使えるのではないか。(中岡敬登)